

令和6年度 西伊豆町教育委員会第6回定例会議事録

- 1 開催日 令和6年10月24日(木) 午後1時30分から
- 2 場所 西伊豆町中央公民館 3階 多目的ホール前
- 3 出席者 鈴木秀輝教育長、高橋浩委員(職務代理)、眞野有吏委員、影山やえみ委員、長島宗紀委員
[事務局 朝倉通彰]
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし

教 育 長：本日の出席者は5名です。過半数に達していますので、ただ今から令和6年度第6回の定例会を開催いたします。

まず、議事録の承認についてですが、令和6年9月18日開催の第5回定例会の議事録については、私と長島委員が確認し署名いたしましたので、ご承認いただいてもよろしいでしょうか。(委員：全員異議なし)

教 育 長：ありがとうございます。

続きまして、今回の議事録署名委員ですが、眞野委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。(眞野委員：了解)

教 育 長：ありがとうございます。

それでは、議題に入ります。日程3の協議になります。

令和7年度 教育委員会関連事業について事務局より説明をお願いします。

局 長：はい。令和7年度の教育委員会関連事業についてということで協議をお願いしたいと思います。1枚おめくりいただきますと令和6年度の予算要求の案件がずらっと並んでおりますが、令和7年度も、ほぼほぼ変わらないような予算要求になっていくかと思えます。上のほうから一つずつ説明していきますと、まず子育て支援関係で、認定こども園の保育料の無償化来年度で10年目となります。認定こども園の給食費の無償化ですが今年度から主食の提供により、完全無償化ということで引き続きやって参りたいと思えます。3つ目が放課後児童クラブの運営ということで賀茂小学区でも運営してほしいという声がありますけども、なかなか人材不足ということもございまして、仁科でのみの運営でスクールバスでの送りということを継続してやって参りたいと思えます。放課後児童クラブの利用路線バス無料化ですが、こちらについては、今まではスクールバスでの送りがなかったものですから、これをやってみましたけども、令和7年度は予算要求しない方向で考えたいと思っております。それから仁科子育て支援センターの土曜日開放を継続してやって参りたいと思えます。6番の小中学校給食費全額補助ということで令和5年度から全額補助になっております。これにつきましてははですね、食材の価格高騰が著しくてですね、どこの市町も、値上げを検討しているような状況でございまして。令和3年の4月からの1食当りの単価が今、小学校で273円、中学校で340円でやってるんですけど、栄養士からもちょっと厳しいという声もございまして、ここまで値上げをしてこなかったもので、ここでちょっと値上げを

検討しようと考えておりました、肉とか加工食品であるとか、魚、野菜、全てを勘案しますと、令和3年4月よりも1.2倍位価格が高騰しているということもございまして、ちょっと1.2倍位の単価で予算要求をしてみようかなと思います。1.2倍にしてしまうと県下で多分1番高くなってしまいうんですよ。なのでちょっとそこを抑えるということと言われるかもしれませんが、要求は1.2倍で要求をしたいと考えております。全額補助なので保護者様への与える影響というのはないですが、先生方の給食費が月1,000円位上がってしまうところがありますので、そこは給食の委員会がありますので、そこで審議をしていただくという形になろうかと思っております。値上げするとざっと計算して200万位増えてしまうので、そこが認められるかどうか。最低でも1.15倍位は上げてほしいということは財政当局とは折衝したいと思っております。こども子育て支援事業計画策定業務委託については、令和6年度で完了しますので来年度はこの事業はございません。今年度策定した計画に沿って、来年度以降5年間業務を行っていくということになります。2つ目の不登校対策関係ですが、適応指導教室の運営ということで、こちらを引き続き運営を行ってまいりたいと思っておりますが、今現在利用されているのが2人とか3人です。なかなか不登校になってもそこにまではってところもございまして、何とか不登校を減らせるようにというのは、学校とも相談しながらですね、取り組んで参りたいと思っております。次が心理カウンセラーの充実ということで、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーの配置は継続して行って参りたいと思っております。いじめ問題対策連絡協議会についても引き続きやっていきたいと思っております。特別支援教育関係ですが、特別支援教育の講演会というのがございまして、こちらは特別支援の委員会が幼小中の先生などで構成されているんですが、支援が必要な子供に対する専門家の先生の講演会を実施しております。支援の必要な子というのが非常に増えている中で、ますますこういったことが必要になってこようと思っておりますので、来年度も予算要求したいと思っております。ことばの教室事業も継続になりますが、お子様の言葉の遅れとか発音等が心配だよという保護者さんとその子供の支援を行っているということで、継続をして参りたいと思っております。次に特別支援教育連携推進協議会、こちらについても、支援の必要な子の巡回相談とかですね、研修会等をやっておりますので、引き続きやって参りたいと思っております。次に国際教育の推進ですが、外国人講師の充実ということで、今、外国語指導助手ALTと言われる職員が3人います。そのうち1人は地域おこし協力隊ということで、今年3年目を迎えますので地域おこし協力隊としてはもう残れないということがございまして。カリンというマレーシア出身の女性ですけども、彼女については、西伊豆町で働きたいという希望もありますので、町の会計年度任用職員として雇用して、引き続きALTをやっていただくというようなことを検討しております。ですので新たなALTの採用はないというような形で考えていきたいと思っております。小学校英語教育環境充実事業ということで、小学校において普段から英語に触れ親しむ環境を整えるということですが、町長は可能な限りALTは学校で、職員室以外は日本語を使わないで英語で子供たちと触れ合ってほしいと。そうすれば、子供たちも英語で

答えなきゃならないとかですね、考える能力がつかだろろうというようなこともございますので、それについてはALTにも、そういった意向を伝えておりますので、来年度以降もさらにですね、英語教育に力を入れるようにやってまいりたいと思います。中学校台湾交流事業ですが、今年復活しまして今回6人行く予定だったんですが、1人がちょっと体調不良で急遽行けなくなってしましまして、5人がホームステイをして参りました。子供たちは非常に楽しかったと言ってくれていますし、最終日に我々と一緒に屏東県の教育部に訪問したんですが、その時に子供たちは中国語で自己紹介をされておりましたので、大人よりも積極的に交流してきたのかなというふうに思います。本来であれば、修学旅行とか教育旅行というのを町長はやりたいという意向がございしますが、学校としてはなかなか修学旅行というのは厳しいというような見解を示されておりますので、何かいいのかっていうふうになりますが、屏東県と高雄市の話聞いた中では、ホームステイっていうのがやっぱり1番いいのかなと思います。そこに対しての受入れ体制というのは非常に積極的で、日本との交流を非常に望んでいますので、広島県とか兵庫県とか鹿児島県とか、埼玉、群馬、栃木とか、そういった所とも交流をしているという実情があるということでしたので、最大20人まで受入れは可能だと言ってくれておりますが、20人出してしまうと今度は学校が成り立たなくなってしまうので、10人位の予算規模で予算立てをして、学年別に選出するとかっていうふうにしていけばいいのかなと。その辺が手を挙げる生徒が何人いるか分かりませんが、10人位の予算規模で予算要求をしていきたいなと思います。今回は事務局が、私と萩原、山梨、ALTのカリンと4人と校長の5人で行ったのですが、今回政府との懇談などの場があったので、責任者を連れていったということもございします。担当がもし変わったときにうまく引き継ぐようにということで担当も2人体制で行きましたが、ホームステイ先に子供たちを預けてしまうと、ほぼほぼやることはないといいますが、今回は教育旅行とかができるかどうかという意味で、いろんな場所の視察をさせていただいたということもありましたが、ホームステイになるのであれば、担当職員とALT、学校の先生1人の3人体制ぐらいでいいのかなというふうな感覚も受けましたので、大人の人数を減らして、その分生徒の人数を増やしていくというような予算要求にしたいというふうに考えています。次が保育教育環境の整備充実ですが、共同学校事務室こちらについては継続5年目ですが西伊豆町・松崎町で共同学校事務室というものを設置して、学校事務の分担を行っているところです。小中キャリアパスポート作成も引き続きということで、あとは3番ですね複式学級補助教員の配置ということでこちらでも来年度以降も複式学級が継続して参りますので、学級補助員の配置というのを、予算要求をして参ります。それから賀茂地域指導主事共同設置事業ですがこちらでも継続8年目ということで、今、松崎町と西伊豆町担当ということで、下村指導主事が来ておりますが、それも引き続きやっていくということでございします。5番のプログラミング教室講師謝礼、こちらについては学校がプログラミング教室の講師をお願いしているということでございします。引き続き、学校から予算要求が上がってきた場合にはこちらでも予算要求をしていきます。幼児教育アドバイザー

一の共同設置負担金、こちらについても幼児教育のアドバイザーというのを1市5町で設置しておりまして東伊豆町が事務局をやってくれておりますが、こちらでも継続してやって参ります。次に施設設備の整備ということで、図書館システムの更改ということで、これは令和6年度に完成しておりまして、システムを入れ替えたものでございます。セルフレジみたいな形で窓口に立ち寄らなくても自分で借りれるっていうようなシステムが入っています。定例会終了後に見ていただくと思っていたんですけど、今日は図書館の会計年度任用職員がお休みということですので、次回の教育委員会定例会の後に見ていただければと思います。それから田子小学校受電設備微量 PCB 含有器取替え工事ということで今年度これは完成しますので、来年度はございません。仁科小の特別教室の空調設備も今年度で取りあえず終わると思います。仁科小のLED 工事も完成しました。次の仁科小の受電設備のPCB含有機器も完成です。今ここに掲載されている工事については令和6年度で完成しますので、来年度考えられるのがですね、西伊豆中学校の体育館のトイレを洋式化と多目的トイレを設置して避難所対策ができるような形に改修工事を行いたいと思っているのと、増進センターがLEDになったということで、非常に明るくて使いやすいと。一方で西伊豆中学校の体育館が暗いと言われていますので、社会体育施設としての稼働率も非常に高いものですから、西伊豆中学校体育館のLED化工事を要求していきたいと思っております。学校からこういった要望が上がってくるかによりますけども、LED化については、2027年末までに蛍光灯の製造が中止されますので、そこに向けて改修が必要になっていくということがありますので、そこは計画的に進めていきたいと思っております。あとはトイレですね、避難所となるような学校については、トイレの洋式化等も進めていきたいとは思っておりますが、統合の関係とかですね、そういったものも考えながらちょっとやっていかなきゃならないということで、この辺がちょっと1番難しいところになるのかなと思います。それから中央公民館の空調改修を今年度行いましたが、私と教育長の頭上のエアコンが夏場前に壊れてしまいました。来年度ちょっと入れ替えてほしいなと思っておりますので予算要求したいと思っております。そんなところですかね。学校がどういう要望を上げてくるかということで、学校の要望を勘案しながら予算要求していきたいというふうに思います。次は高校生保護者支援及び松崎高校存続支援ということで高校生通学費の補助もこちらは継続ということになります。松崎高校給付型奨学金ですね、こちらも、継続をしているわけですが、なかなかですね、この給付金があるからといって松崎高校を選択しましたというアンケートでの回答はないのが現状です。やっぱり、お金じゃないと。進学先は自分がやりたいこととか、やりたい部活だとかっていうところを目指していくので、やっぱり下田高校に行ってしまうっていうこともありますし、よその学校に行くっていうこともありますので、この辺についてはちょっと議会でも言われてるんですけども、金額じゃないって言われると金額を上げて松崎高校を選ぶわけではないので、それであれば思い切って廃止するかっていう点もあると思うんですが、廃止っていうことに対しての抵抗感ってかなりあると思うんですね。なのでその辺はちょっと今後も引き続き検討していきたい

いなと思いますが、逆に高校生通学費助成金は、松崎高校2分の1、下田高校4分の1なんですけど、この4分の1をやめて、松崎高校にっていうふうを持って行ったほうが個人的にはいいんじゃないのかなって。私が財政にいたときにこの制度が提案されたのですが、松崎高校の存続のためって言ってこれをつくったんですが、下田高校まで支援するのは趣旨がおかしくないですかっていうふうに言ったんですけどもね。今年からやめちゃうのっていうのもなかなかできないでしょうから、その辺が難しいところだなあというふうに思っています。次が小学校の統合支援ですが、スクールバス運行業務については、引き続きスクールバスの運行を実施して参りたいと思います。スクールバスの管理業務、こちらも運行と管理で同じ業務ですので、引き続きということです。次にスクールバスの目的外利用事業ですね校外事業ですとか部活動の練習試合、公式試合、放課後児童クラブなどで利用しておりますが非常に利用頻度が高くなっておりまして、東海バスさんもなかなか今ドライバーがいなくて、厳しい状況の中で非常にスクールバスの利用っていうのはニーズが高くなっています。今回ですね、ふるさとまつりでも、ちょっと、駐車場の東海工業さんの駐車場が借りれないということが出てきたようで、学校のグラウンドを臨時駐車場にしてそこからスクールバスでピストンしたいという話がありましたけど、学校以外での利用っていうのは国への届出が必要になりまして、今届出をしてるんですけども、そういったことにも最近なってきたております。今年も市町対抗駅伝の応援バスは出さないんですけど、保護者さんは行きたいっていう話で、そこが10人位いるということになりますと、ワンボックスでは行けないので、スクールバスを目的外利用しようかという話を検討しておりますが、そういったことにも使われています。これが6年経つと届出なしで自由に使えるようになります。次は中学校の統合支援ですが通学費の助成についても引き続きやって参りたいと思います。奨学金制度、高校生給付型奨学金ですね。こちらも、先ほどの話と同じですが、やっていきたいと思えます。特色ある学校づくりの推進事業ということで、これは学校裁量予算になっているんですが、先日、予算の説明会をしたんですが、なかなかちょっと金額的に多くて使い切れないっていうような声も上がってきてましてですね、子供もちょっと少なくなってきたというので、今までの配分の金額っていうのをちょっと見直そうかっていう話もしています。もし特色っていうわけじゃなくて、子供たちの教育とか授業のための備品とかですね、そういったものを充実してほしいということであれば、特色の予算を減らして、学校の管理費予算を増やすってことをちょっと考えていく必要があるのかなというふうに思っています。次がGIGAスクール構想及び校務DXの推進ということで今年度教員用のパソコンを入替えます。これは購入して今、設定をしているところです。グーグルアカウントドメイン管理というのはグーグルのアカウントを取得しまして、各学校間、それから他市町の学校間とグーグルのメールアドレスでやりとりができるとかですね、チャットができたりとかですね、そういう環境を整えておりますので、これが必要になってくるものでございます。次のiPad保守業務ですが、導入してから5年が経過しまして、これを今度はですね次の入替えは、県で共同調達っ

ていいまして、今まで各市町で業者と契約していたんですけど、県が取りまとめをして、入札をかけて各市町にそれを配付するというやり方を今回してるんですけど、主な機種が iPad 使ってるところとグーグルクロームっていうところの2種類あります。西伊豆町は今 iPad を使ってます。松崎高校に行くとグーグルクロームになるそうなんですよね。そうすると、使い勝手がよくないといいますか、県内市町のほとんどが、グーグルクロームなんです。先生方にもこれは説明をしてありますが、グーグルクロームに来年度以降はなっていくというような形になります。賀茂地区校務支援共同事業負担金ですが、校務支援システムという、学校の先生たちが行う事務のシステムがあるんですけど、これも5年が経過して、今使っているシステムがちょっと、ベンダーのフォローが悪いということですので、よく評判が悪いということで、今回は違う業者になりまして、来年度以降ちょっと負担金が増えてきますけども、先生方が働き方改革の中で、使い勝手のいいシステムを使ってもらったほうがいいだろうということもありますので、こちらも1市5町の協議会があってそこでシステムを選考して、決定されたシステムに変わっていくということになります。次が社会教育関連事業ですが、親子漁師体験業務委託ということで、これは令和6年度からの新規事業ですが、非常に好評だったということもございまして、来年度も継続してやって参りたいと思います。このほかにですね、社会教育の関連事業で、親子林業体験っていうのをちょっと今考えてまして、松崎町さんは今やっているんですけど、伐採から製材までの工程などを学べるという感じですかね。伐採する重機が現場にある状態のときに、林業体験プログラムをやっている業者がありますので、そういったものを行っていきなというふうに思います。子ども子育て会議などの中で、子供が参加できるイベントが少ないので、何かもうちょっと増やしてほしいということもありますし、あとは親と子の絆と言いますか、家庭教育っていうところが、今ちょっと希薄になってきていて、国もそれを危惧しているというのもありますので、小さい頃から親と共同作業じゃないですけど、そういったことも必要なのかなと思いますので、そういった新規事業も提案していきなと思います。その他の事業で静岡茶の提供事業も継続と。小中学校の環境美化活動補助金ということも、継続してやって参りたいと思います。大まかなものは以上ですが、委員の皆様方からですねこういったところの予算づけを重点的にとかなですね、こういったものはどうかっていうご提案がありましたらですね。お伺いさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

教 育 長：はい。ありがとうございます。それではただいまの説明について、質問とかご意見ありましたらお願いします。どこからでもいいですので、気になったところから、お願いします。中学生の支援の所で、入学時の制服購入支援はなくなるんだだけ。

局 長：それは令和6年度で終わりになりまして、来年度からは、こども成長祝金でしたかね福祉のほうで一本化されます。

高橋委員：ちょっといろいろ気になるんだけど。よろしいですか。

教育長：お願いします。

高橋委員：給食費を1.2倍に要求するわけでしょ。1.15とかそんなこと言わないで1.2倍にしちゃわないと。テレビでやっているのはもう何々値上げだけ。議員さんたちも知ってるじゃん。だから、子供たちのためを考えてくれれば、1.15からまた上げるときにまた難しくなるじゃん。だからもう、もう1.2倍で要求してほしいと思う。

局長：要求は1.2倍ですが、全体的な予算のバランスを見て、ここ何とかならないかって言われたらせめて1.15倍までは絶対上げてくださってという交渉をします。松崎町が去年10%上げています。今年度もどうするか、ただ保護者から給食費を支払っていただいているところは毎年毎年上げるってわけには多分いかないと思うんですよね。

高橋委員：災害とかなるとすぐ高くなっちゃうから。

局長：野菜の価格が1番変動が多いみたいで、時期にもよるって言ってましたけど、一概に幾らあれば足りるって言えませんと栄養士から言われているので。都市部なんかは、導入業者が多くて競合するから安く買えるわけですよ。でもこっちは導入業者が少なく言い値になっちゃうっていうのが現状です。

教育長：ほかにありましたらお願いします。

長島委員：よろしいですか。先ほどの高校生保護者とか、松崎高校存続支援、下田高校のバスの助成金を今出してくださってるっていうのがあったんですけど、非常に大きくてですね、例えば、高校を選ぶのにはもちろんですけど、やっぱりその助成ってのは非常にありがたくてですね、バスだってほかにならないんですよ。その中で出るのは、松高も多分下田も両方ひっくるめて非常にありがたいので、ぜひ続けてほしいなっていうのが本音ですね。本当にこのありがたみってのは、非常にみんな親はありがたく思ってると思います。この間ちょっとまた定期代が上がったんですよ。

教育長：ほかにありましたらお願いします。

高橋委員：結構もうやることはやってきてるから。

局長：そうなんですよね。後は施設の老朽化を何とかするだけしかないんですよ。ただそれもうやっぱり統合の絡みがしっかりしてもらわないと、無駄なお金をまたそこに投資するわけにはいかないもんですから。

高橋委員：学校は本当にね、ほとんど整備されてきてるから、ちょっと今の関連でいいですか、この施設設備の整備の関係が単年度でやってるわけだね。今この総額というのは、来年なくなっちゃう。

局長：この総額はなくなりますね。総額はなくなりますけど、例えばLED化工事なんかは、次年度はこの教室をやってほしいとかって継続して上がってくる可能性があるんですよ。

高橋委員：予算減らしちゃうとまた今度要求するときに困るから、これを使った金額辺りを来年度もほかのLEDとか何とかで使うような予算立てをしていけばいいかなと

思うんだけど。

局長：そこはですね、なかなか今その財源の補填ですよ。これ今全部単費なんです。LEDとかトイレの改修って一応3分の1の国庫補助があるんですよ、国の交付金が付くんですけど。当然ながら工事をやってそれが10年間とか決まってる、それまでに使わなくなった施設になると、もらった補助金を返さなきゃならないとか、そういうのが出てくるんですよ。今宙ぶらりんの状況じゃないですか。やっぱり方向性をちゃんとしておかないと施設の改修の方向性も決まっていけないので。

高橋委員：幾つかあるんですけど、いいですか。不登校対策関係が。いろいろ対応してもらってるんですけど、うちの近所にも1人2人いるのかな。昔はいじめでね、嫌だからってというのが大半だったけど、今テレビなんかでいうと、自分が行きたくないからとか、夜遅くまでゲームやってるから朝起きれないとかっていうことで、親は一切口出せないもんで、そんな原因があって認識でやったけど。結局その、これからもあると思うんだけど、そういう家庭の問題もあるし、本人がすごく気づいてる部分もあるだろうし。そのうちカウンセラーの質問なんだけど、どういう対応してるかわかんないけど、先生が家庭訪問とかしないの。

局長：先生方は家庭訪問をしております。していますし、保護者さんがスクールカウンセラーとかに相談したりとか、本人がスクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーさんに相談しているっていうケースもあります。都市部だとフリースクールとかがあるじゃないですか。賀茂郡でフリースクールやっても下田にあるから通うかって言ってもなかなかそうもいかないじゃないですか。せめて松崎、西伊豆でどこかについているのがあれば、そういったところできっかけづくりっていうのはできるでしょうけど、そういうのがない限り多分変わらないでしょうね。もしくは中学校は行けなかったけど高校からとかっていうパターンを待つしかないのが今の現状ですかね。適応指導教室があるものですから少しでも外へ出れるようになってことでやってますけどさっき言ったように、利用者は1人2人ということでやっぱりなかなか家から一步出るっていうそこは子供にとって難しいのかなど。県のほうで来年からバーチャルスクールですね。自分がアバターになってというのが始まります。

教育長：教科の勉強だけならそれでいいかも知れませんが、やっぱり人間関係を作るとかそういうことは将来、職業にもよるんでしょうけども一般的にはね、人間関係大変必要になってくるでしょうから、大きな問題ですよ。

局長：なのでさっきも言いましたけど、家庭教育っていうのが馱目になってると。国がそう言ってるわけですから、やっぱり幼少期のつながりっていうものをしっかりと、幼小中って継続していくような取組をしていかないといけないと思います。

高橋委員：予算全体からいくと来年度はどんな感じなの。

局長：火曜日に園・学校に説明したばかりなのでまだこれからです。経常経費的なものってあまり変わらないんですよ。1番金額が変わってくるのは、高橋委員がおっしゃってる工事費ですよ。ここの増減ってのはすぐ1,000万とか2,000万円っ

ていうなっちゃうので、それがどれだけ要求が上がってくるかということですね、当然子供の数が減っていけばかかるお金は減ったりっていうこともあるので、固定費は変わらないですけど、ただ複式学級があるので、当然先生方のコストが上がっていくっていうのはあります。あと支援員ですね。1番やっぱりコストがかかるのは人件費なので。

教 育 長：何か新規でやったらっていうようなご提案がありましたら。何か思いつくことありましたらお願いしますけど。よろしいでしょうか。

教 育 長：それでは、そのほかなければこれで終わりたいと思います。それでは、本日の協議案件は終了いたしましたので、これで令和6年の第6回定例会は終了いたします。お疲れさまでした。